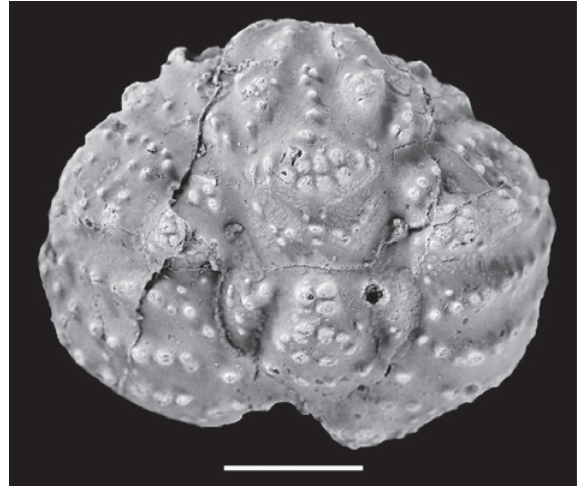


瑞浪市化石博物館研究報告第 45 号概要 —掲載論文の紹介—

アメリカ合衆国ニュージャージー州の上部白亜系 Wenonah 層から産出した 世界最古のカイカムリ（短尾下目，カイカムリ科）化石

……………世界最古のカイカムリ化石を発見

アメリカ合衆国ニュージャージー州の白亜紀後期の地層である Wenonah 層（約 7 千万年前）から世界最古となるカイカムリ（甲羅にカイメンやホヤなどを乗せて生活するカニの一種）が発見され、*Costadromia hajzeri*（コスタドロミア・ハージェリイ）と名付けられました。

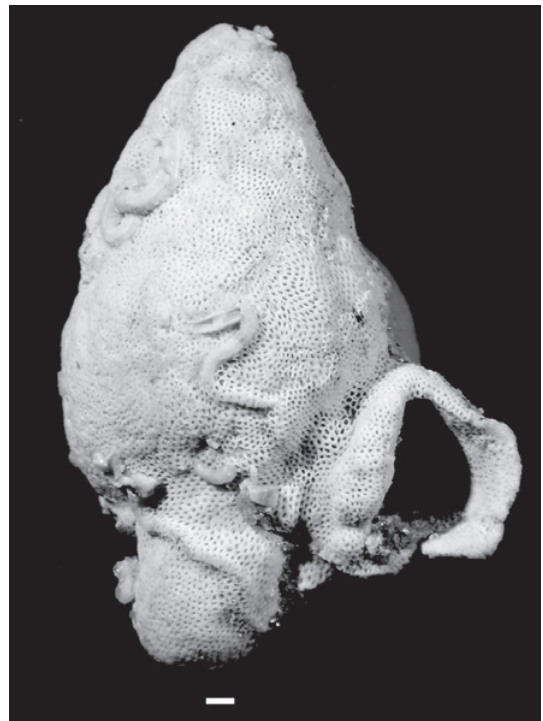


Costadromia hajzeri（コスタドロミア・ハージェリイ）
（スケールは 1 cm）

アメリカ合衆国ノースカロライナ州の River Bend 層（漸新世）からヤドカリの 住処にされた巻貝化石の発見

……………ヤドカリの住処にされた巻貝化石を発見

アメリカ合衆国ノースカロライナ州の River Bend 層（約 2900 万年前）から殻の表面がコケムシやカンザシゴカイに覆われた巻貝の化石 14 点が発見されました。殻やコケムシの状態からヤドカリの住処にされた巻貝であることが推測されました。なお、この地層からこれまでにヤドカリの化石は全く見つかっておらず、間接的にヤドカリが生息していた証拠となります。



ヤドカリの住処にされた巻貝（スケールは 1 mm）

アメリカ合衆国オレゴン州の下部白亜系 Hudspeth 層から産出した十脚目
(短尾下目：アサヒガニ群) の新属新種

……アメリカの 1 億 1 千万年前の地層から新属新種のカニ化石の発見

アメリカ合衆国オレゴン州の太平洋岸に分布する白亜紀前期の地層である Hudspeth 層 (約 1 億 1 千万年前) からアサヒガニ群のカニ化石が見つかり、新属新種 *Anoplocarcinus hudspethi* (アノプロカルシヌス・フッドスペシイ) として記載されました。これまでに北アメリカ大陸太平洋岸の白亜紀前期のカニ化石は珍しく、今回で 3 例目の発見となります。この発見によって当時の東太平洋域のアサヒガニ群の分布や生存期間などが今後明らかになるでしょう。

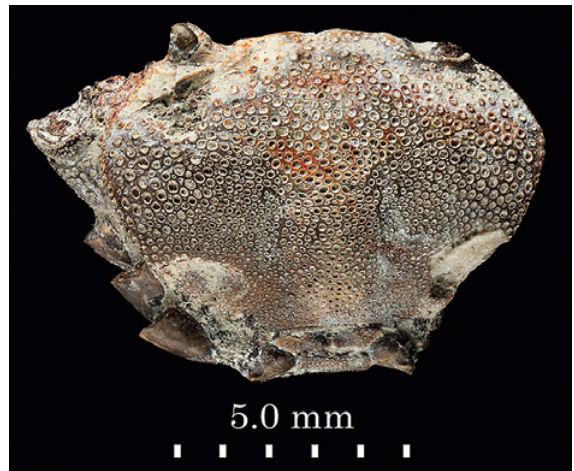


Anoplocarcinus hudspethi (アノプロアルシヌス・フッドスペシイ)
(スケールは 1 cm)

アメリカ合衆国テキサス州の Del Rio 層 (アルビアン/セノマニアン境界) から
産出した新種十脚目 *Caloxanthus kavanaghi* (十脚目：短尾下目)

……アメリカの 9900 万年前の地層からカニ化石の新種発見

アメリカ合衆国テキサス州に分布する Del Rio 層 (約 9900 万年前) から新種のカニ化石が見つかり、*Caloxanthus kavanaghi* (カロサンティウス・カファナギイ) と名付けられました。

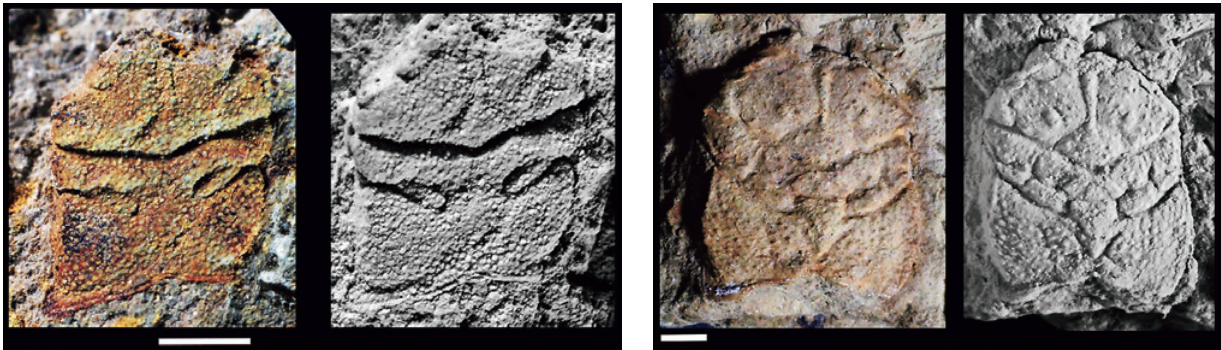


Caloxanthus kavanaghi (カロサンティウス・カファナギイ)

四国の鳥巢層群（上部ジュラ系－下部白亜系）産 *Planoprosopon* 属 （十脚目：短尾下目）の2新種

……………高知県から日本最古のカニ化石2新種発見される

佐賀県佐川町に分布する鳥巢層群（約1億4千万年前）から *Planoprosopon* 属（ヒラナガカイカムリ属）の2新種が発見されました。それぞれに、*Planoprosopon ogawaense*（オガワヒラナガカイカムリ）と *Planoprosopon sarumaru*（サルマルヒラナガカイカムリ）の新種名が付けられました。ヒラナガカイカムリの仲間は、これまでにヨーロッパからは発見されていますが、環太平洋域では2例のみであり、今回の発見は貴重な記録となります。



左：オガワヒラナガカイカムリ、右：サルマルヒラナガカイカムリ（スケールは2 mm）

Callianassa (s.l.) *sakakuraorum* Karasawa, 2000（十脚目：アナエビ下目） に対する新属の創設

……………新属「アマツカミエビ属」誕生

2000年に新種として発表された *Callianassa* (s.l.) *sakakuraorum* ですが、その後、追加標本が得られ、さらに模式標本を再検討した結果、新属であることが明らかになりました。また、本種の所属はスナモグリ科と考えられていましたが、ミツヘルエビ科に所属することも明らかになりました。本研究により、新属 *Amatukamius*（アマツカミエビ属）が誕生し、本種の学名は *Amatukamius sakakuraorum*（アマツカミエビ）になりました。



アマツカミエビ

和泉層群産後期白亜紀十脚目－アナエビ下目の2新属1新種と 短尾下目の1新科の記載

……………和泉層群から発見されたエビ・カニ化石の大図鑑

兵庫県淡路島および大阪府に分布する和泉層群（白亜紀後期：約7000万年前）から発見されたエビ・カニ化石をまとめ、図版にしました。まとめた7種については、再検討を行い、和名を提唱しました。それらは、*Astacodes* 属（ムカシイセエビ属）、*Linuparus japonicus*（ニッポンハコエビ）、*Hoploparia* 属（コアカザエビ属）、*Hoploparia miyamotoi*（ミヤモトコアカザエビ）、*Hinecaris* 属（ヒネエビ属）、*Hinecaris simplex*（ヒネエビ）、Gourretiidae 科（ガーレスナモグリ科）、*Ahazianassa* 属（アワジスナモグリ属）、*Ahazianassa masanorii*（アワジスナモグリ）、Archaeopidae 科（ガンメンガニ科）、*Archaeopus* 属（ガンメンガニ属）、*Archaeopus ezoensis*（ガンメンガニ）です。



ニッポンハコエビ（スケールは1 cm）

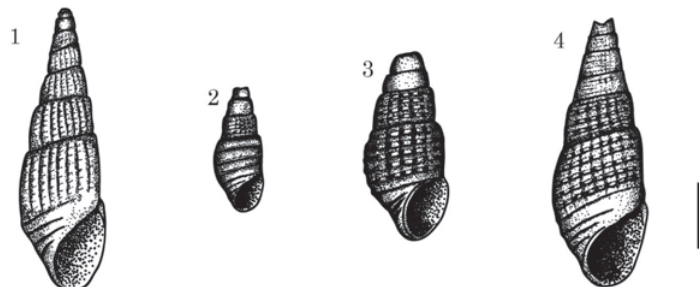


アワジスナモグリ（ハサミ）（スケールは1 cm）

三重県と滋賀県の鮮新－更新統古琵琶湖層群からカワニナ属 （軟体動物門：新生腹足上目：カワニナ科）の4新種の記載

……………カワニナ属化石4新種が発見される

滋賀県と三重県の古琵琶湖層群から4新種のカワニナ属化石が発見されました。古琵琶湖層群阿山層からは *Semisulcospira (Biwamelania) reticulataformis*, sp. nov.（新称：コウカカワニナ）が、阿山層および甲賀層からは *Semisulcospira (Biwamelania) nojirina*, sp. nov.（新称：ノジリカワニナ）が、蒲生層からは *Semisulcospira (Biwamelania) gamoensis*, sp. nov.（新称：ガモウカワニナ）と *Semisulcospira (Biwamelania) tagaensis*, sp. nov.（新称：タガカワニナ）が新種として記載されました。

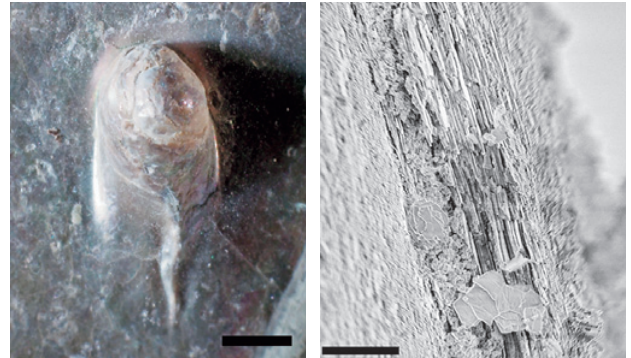


新種として記載された4種のイラスト、左からコウカカワニナ、ノジリカワニナ、ガモウカワニナ、タガカワニナ（スケールは1 cm）

瑞浪北中学校敷地造成工事現場の瑞浪層群明世層山野内部層産真珠化石

……………北中工事現場から真珠化石を発見

瑞浪北中学校敷地造成工事現場から2016年に採取したエゾイガイの殻の内側に真珠の化石が付着していました。電子顕微鏡で観察したところ、多くの薄板が階段状に積み重なった層状構造を観察することができました。この発見は、瑞浪層群からは3例目の記録となります。



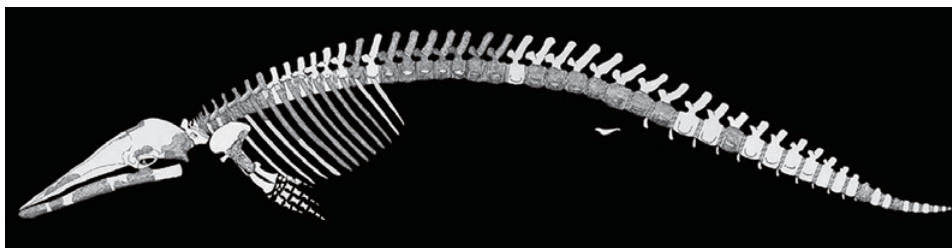
真珠化石（スケールは5.0 mm）

電子顕微鏡による表面の拡大
（スケールは10.0 μm）

中新統産ヒゲクジラ類 *Isanacetes*（イサナセタス）属の復元と 瑞浪市化石博物館の展示への活用

……………イサナセタスの復元画を制作・展示

瑞浪北中学校敷地造成工事現場から発見されたイサナセタスの標本とこれまでに発見された標本をもとに、全身骨格と生きていた当時の様子を復元画として制作しました。この論文ではその制作過程を紹介するとともに、完成した復元画をどのように展示したかを紹介しています。展示後のアンケートをまとめたところ、すべての来館者が復元画の必要性を指摘していました。また、発掘の様子や復元画制作の様子の映像への関心も高く、完成品としての展示物だけでなく、それに至る過程も展示する必要性が明らかになりました。



イサナセタスの全身骨格復元画



イサナセタスの古生態復元画